

ちょっといい話

毎日新聞

コラムは

クーポンや割引券をうまく使えたためじゃない。気がつくといつも期限切れ。それに慣れっこになっているので、もったいないときえ感じなくなっている。

でも、これは使わねばもったいないと思うクーポンがある。風疹の抗体検査とワクチンがセットになった無料クーポン券だ。

もしみなさんが1972年4月2日〜79年4月1日生まれ男性だったら、ほとんどの人がすでに受け取ったはず。厚生労働省が今



記士 do-ki

青野 由利

クーポンと利他行動

春から導入し、全部で646万人分を配った。来年度はその上の世代の男性も対象となる。

なぜ限定配布かといえば、子どもたちの定期接種の対象から漏れた人々だから。その結果、自分が感染するだけでなく、「感染源」にもなってきた。最大の問題は妊娠初期の女性に感染すると難聴や

春から導入し、全部で646万人分を配った。来年度はその上の世代の男性も対象となる。

つまりクーポンは、他人にうつさないための「利他行動」を促すツールといえるだろう。

ところが、利用率は低調だ。4〜8月に抗体検査を受けた人はクーポンを受け取った人の1割、ワクチンを接種した人は2%。近所

の医療機関で自費で受ければ1万円前後するにもかかわらずだ。

「最大の原因は対象世代の男性と企業の経営層の無関心」。そう分析するのは筑波大で公衆衛生学を研究する産業医の堀愛さんだ。

2013年の風疹流行時に20〜49歳の男女約1800人を対象に調べたところ、パートナーの妊娠を希望している男性の2割がワクチン接種を受けていたが、希望していない男性では2・5%。ワクチンの必要性を知っているかも妊

娠希望か否かに左右されていた。

中年男性が意思決定を担う多くの職場でもワクチン接種が推進されているとはいえないという。結局、自分の子どもに関係なければ無関心ということかもしれない。

今回は無料クーポンが利他行動を後押しできるかどうかを占う実験のようにも思えるが、現状をみると「金銭的お得感」だけでは十分ということになる。

そこで季節柄期待できそうな

疹ワクチンの同時接種で手間を省くことだ。実は厚生労働省も同時接種を提案している。ただネックとなるのは抗体検査で免疫が足りない」とわかった人しかワクチン接種のクーポンを使えないことだ。

抗体検査は自分の感染歴を知りたい機会だとは思いますが、ハードルが高いかも。せっかく用意したワクチンが期限切れにならないよう、抗体検査抜きのクーポン利用も、ぜひ検討を。(専門編集委員)